

北大会は遠軽(左)と富良野の両校優勝となり、2校並んで優勝旗を受ける



遠軽トライ数で花園切符

全道高校ラグビー 南北選手権
最終日(22日、中標津町運動公園)

遠軽と富良野の北大会決勝は22日の時点で終わり両校優勝。トライ数で上回った遠軽が、辛くも全国大会の出場権を得た。北大会の両校優勝は2007年度以来5年ぶり。

【南大会▽決勝】
札山の25(15)10-15(7)8富良野
手山20(10)10-30(0)15計25
札山10(5)8富良野10(5)7計15

【北大会▽決勝】
遠軽22(7)148-22富良野
遠30(15)15計25
遠10(5)7富良野10(5)7計15

22日、遠軽の優勝は3年連続9回目。富良野は後半終了間際のペナルティゴールを決められ、8年ぶり3回目の優勝ながら花園行きを逃した。南大会は札山の手が13連覇。底力の違いで初優勝を狙った函ラサールを退けた。全国大会は12月27日から近鉄花園ラグビー場(大阪)で開催される。

「外れたときは、正直うれしかったです」。安堵の涙を流したPR佐竹優哉(3年)は、遠軽の優勝を祝った。遠軽は、前年を15-8で折り返した後半、風上に立つ富良野の猛攻にのみ込まれた。「気持ちが入った相手に、僕らは受けてしまった」と佐竹主将。2トライを許し、気がつけば後半19分で15-3連覇の道が消えていた。ラックとフ

富良野ラストPG外れた
試合終了間際、花園に届くはずだったSO柴田智也(3年)のPGは、無情にも左へ離れた。「あんな緊張は初めて。今までやってきたキックがでまなかった」。責任を背負う柴田は、仲間たちは誰も責めない。「これがラグビー」。坂口和紀監督(33)は深く結果を受け入れた。風上に立つ後半勝負の

で追い付いた。「富良野は素晴らしいが、うちの心の弱さが出た」と反省した山内監督。スキー場や坂道のダッシュを昨年より倍増し、BKもFWも走れるチームを鍛えた今季。自慢の走力を出し切れなかった精神面の弱さを露呈した。

しながらも、全国切符だけは死守した。山内監督は自らに言い聞かせた。「全国までの3カ月で、もっと強くなりたい」。来月下旬以降に本州遠征を複数回行い、心身ともに鍛え直す。「相手がどこでも自分たちの雰囲気でも戦えるようにしたい」と佐竹主将。41大会ぶり全国勝利へ、この苦い3連覇を無駄にほしくない。(星園典)

り2回目。遠軽の優勝は3年連続9回目。富良野は後半終了間際のペナルティゴールを決められ、8年ぶり3回目の優勝ながら花園行きを逃した。南大会は札山の手が13連覇。底力の違いで初優勝を狙った函ラサールを退けた。全国大会は12月27日から近鉄花園ラグビー場(大阪)で開催される。

Wの縦突破を繰り返して追いついた。「富良野は素晴らしいが、うちの心の弱さが出た」と反省した山内監督。スキー場や坂道のダッシュを昨年より倍増し、BKもFWも走れるチームを鍛えた今季。自慢の走力を出し切れなかった精神面の弱さを露呈した。

で追い付いた。「富良野は素晴らしいが、うちの心の弱さが出た」と反省した山内監督。スキー場や坂道のダッシュを昨年より倍増し、BKもFWも走れるチームを鍛えた今季。自慢の走力を出し切れなかった精神面の弱さを露呈した。

しながらも、全国切符だけは死守した。山内監督は自らに言い聞かせた。「全国までの3カ月で、もっと強くなりたい」。来月下旬以降に本州遠征を複数回行い、心身ともに鍛え直す。「相手がどこでも自分たちの雰囲気でも戦えるようにしたい」と佐竹主将。41大会ぶり全国勝利へ、この苦い3連覇を無駄にほしくない。(星園典)